

4 高齢者と暮らす社会

1 主 題 高齢者の人権

2 主題・教材について

日本社会における高齢者（65才以上）人口は、2015（平成27）年9月15日現在推計で3,384万人で、総人口に占める割合は26.7%と、共に過去最高となった。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、日本における高齢化率は今後も上昇し、2040年には、36.1%になると見込まれている。

高齢化社会の到来は、日本に限られたものではない。今、すべての高齢者が社会に参加でき、自己実現への可能性を伸ばしていけるようにすることが、世界レベルでの大きな課題の1つとなっている。

1990（平成2）年、国連は10月1日を「国際高齢者デー」に指定し、翌年には「高齢者のための国連原則」を採択した。これは、世界的に進む高齢化を見据え、高齢者の人権を保障するための原則を示したものである。

日本においては、1995（平成7）年に「高齢社会対策基本法」が施行され、これを受け、翌年には「高齢社会対策大綱」が作られた（2001（平成13）年に見直し）。また、高齢者の尊厳の保持にとって高齢者虐待を防止することが重要であることから、2006（平成18）年には、「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）」が施行された。

こうした中、高齢者が介護の際に虐待を受けたり、無断で財産を処分されたりするなどの人権問題が発生している。その背景には、現代の日本社会が抱えるゆとりのなさとともに、高齢者は生産効率が低い、存在価値が低いと捉える偏見の存在が考えられる。しかしながら、高齢者は、これまでの社会を支えてきた人たちであり、その豊富な経験に基づく知識や知恵は私たちにとってかけがえのない財産である。また、それ以前に、高齢者は、間違いなく私たちと共に今を生きている人たちのなかである。高齢者が自己実現を図ることのできる社会の実現を目指し、高齢者に対する理解を深め、高齢者を尊重する態度や技能を身に付けることが求められている。

この教材では、自身の高齢者観をふり返るとともに、高齢者の暮らしぶりやそこにある思いと自分自身を重ねさせたい。そのことを通して、人権尊重の視点に立って高齢者問題を考えるとともに、高校生として、共に地域社会に生きる人として自分にできることから行動に移そうとする意欲を培いたい。

- ### 3 ねらい
- ・高齢者の尊厳を尊重する態度を身に付ける。
 - ・高齢者と共に生きる社会づくりに主体的に関わる態度を培う。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	「高齢者Yes or No !?」に答えてみよう。		
	・本文（P.10）の「高齢者Yes or No !?」の設問に○・×で回答する。 ・答え合わせをした後、その結果をふり返ることを通して、自身の高齢者に対するイメージについて意見交換をする。	・グループやペアで考えることにより、学習に参加しやすい雰囲気づくりをする。 ・正解を発表する。 ・高齢者に対するステレオタイプなものが見方があることに気づかせたい。	
展開	・自分はどんな老後を過ごしたいかを話し合う。 ・本文（P.11）の「シルバー川柳」を読み、作品に込められた作者の思いとその背景にある暮らしについて想像したことを話	・身近にいる高齢者の姿を思い浮かべて考えられるよう、支援する。 ・表面的な読み取りで、高齢者を笑い	

展 開	し合う。	の対象とすることのないよう、十分に配慮する。 ・川柳の自虐的な言い回しに込められた高齢者の悲哀の中にあるたくましさに気づかせたい。 ・高齢者も、人として尊重されて生きることを願う存在であること、それは自分たちと何ら変わりがないことを確認する。
	高齢者と暮らす社会に向け、自分たちにできることを考えよう。	
ま と め	・本文（P.12）の『高齢者と暮らす社会』の実現に向けて」を読み、自分たちについて考える。	・日常の学校生活で行っていることの中に高齢者との接点を見いだせるよう、学校生活をふり返らせたい。
	学習をふり返ろう。	
	・学習をふり返り、気づいたことを話し合う。	

5 発展

高齢者が、人として尊重されて生きる上で必要なもの・こと・状況について、※KJ法を使って整理し、「高齢者のための国連原則」のどれに当たるかを確認することなどにより、高齢者の人権についての考えを深めることも有効である。

※KJ法：学習者たちが、あるテーマについてブレインストーミング等で考え出した多くのデータ（情報やアイデア）をカードに記述し、それらをグルーピングし、図や文章等にまとめていくことを通して、考えを整理する手法。文化人類学者の川喜田次郎さんによって考案されたためKJ法と呼ばれる。その進め方は、以下の通り。

- ①カードの作成 1つのデータを1枚のカードに要約して記述する。（1枚に1つのデータだけ。複数書き込まない。）
- ②グループ編成 数多くのカードの中から似通ったものをいくつかのグループにまとめ、それぞれのグループに見出しをつける。

＊グループ間の関係について考え、全体を論理的に説明していく場合もある。

《参考》

◆「高齢者のための国連原則」は、以下のような多くの分野で行動を求めるものとなっている。

自立 independence	高齢者は、食糧、水、住居、衣服、医療、労働およびその他の所得創出機会、教育、訓練、ならびに、安全な環境での生活に対するアクセスを有するべきである。
参加 participation	高齢者は、地域での生活に引き続き統合され、その福祉に影響する政策策定に積極的に参加すべきである。
介護 care	高齢者の社会・法律サービスおよび医療へのアクセスを確保することにより、最適レベルの身体的、精神的および感情的福祉を達成できるようにすべきである。その際、高齢者の尊厳、信条、ニーズおよびプライバシーも完全に尊重すべきである。
自己実現 self-fulfilment	高齢者の教育的、文化的、精神的および娯楽的資源に対するアクセスを確保し、その潜在的な能力を完全に開発できるようにすべきである。
尊厳 dignity	高齢者は、尊厳と安全の中で生活でき、搾取および身体的あるいは精神的虐待を免れ、かつ、年齢、性別および人種的あるいは民族的出自に関係なく公正に扱われるべきである。

《参考》

「高齢者Yes or No !?」解答と解説

◇高齢者とは、65才以上の人を指す!?【○】

国連の世界保健機関(WHO)の定義では、65才以上のことを高齢者としている。

◇体力は、高齢になると衰えがちになる!?【○】

2014（平成26）年度の体力・運動能力に関する調査結果（文部科学省）によると、体力水準は10代でピークを迎え、20才以降は加齢に伴い低下する傾向を示している。

◇高齢者の半数は、記憶力が衰え、周囲の人や出来事・時間などの正しい判断ができなくなり、認知症になっている!?【×】

高齢者における認知症の全国有病率推定値は15%である（厚生労働科学研究 筑波大学 浅田教授による）。

◇高齢になると、五感（視覚・聴覚・味覚・触覚・嗅覚）のすべてが衰えがちになる!?【○】

高齢になると、感覚細胞の変化や減少、また、感覚を脳まで伝達する機能の低下などにより、いわゆる「五感」が衰えてくる。皮膚の感覚が鈍くなったり味覚・嗅覚が低下したりすることで食品が傷みかけていることに気づかずに食べてしまい事故になることもある。聴覚は、年齢に従って、特に高い周波数の音が聞き取りにくくなる。

◇交通事故による死者の半数は、高齢者である!?【○】

国土交通省によると、2014（平成26）年の交通事故による死者（4,113人）のうち、半数を超える2,193人（53.3%）が高齢者であった。

◇高齢者世帯が貯蓄をする目的としては、「病気・介護の備え」が最も多い!?【○】

2014（平成26）年の高齢社会白書（内閣府）によると、世帯主が高齢者の世帯の貯蓄の目的としては、「病気・介護の備え」が62.3%でトップ、続いて「生活維持」（20.0%）、「豊かな生活・趣味」（4.6%）となっている。

◇60才以上の人のうち、何らかのグループ活動に自主的に参加している人は、半数にも満たない!?【×】

2014（平成26）年の高齢社会白書（内閣府）によると、60才以上の高齢者の61.0%は何らかのグループ活動に参加したことがある。活動全体を通じて参加してよかったこととして、「新しい友人を得ることができた」「生活に充実感ができた」「健康や体力に自信がついた」が挙げられている。

◇労働力人口に占める高齢者の比率は、10%以下である!?【×】

高齢社会白書（内閣府）によると、労働力人口総数に占める高齢者の比率は、1980（昭和55）年の4.9%から大きく上昇し、2014（平成26）年には10.6%となっている。

◇2015年（平成27年）、日本の人口の25%以上が高齢者である!?【○】

総務省統計局によると、2015（平成27）年9月15日現在の推計で、日本の人口は1億2,683万人である。このうち、高齢者は3,384万人で、総人口に占める割合は26.7%となっている。